

国際文化交流学科科目 シラバス

380103			
科目名	地域交流	年次配当	2年次
担当者	板倉 一枝・荒井 優・國本 真吾	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科・幼児教育保育学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	前半は一般市民参加

授業概要

地域交流にどのような意義があるのか？ 自分の身近なところで、どのような地域交流実践ができるのか？ これらをもとに行うリサーチや実践活動の成果を地域に還元していく。  
大学内での授業に終始せず、学外に出て地域住民と触れあいながら学ぶ授業である。

到達目標

- ・一住民として自らが問題を見つけ、主体的に解決しようとする態度を身につける。
- ・よりよい社会をめざして自分に何ができるか考え、地域と関わりながら実践することができる。

教材

教科書(テキスト)  
なし

テキスト以外  
必要に応じて資料を配布する。

評価方法

提出物50%、授業態度50%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

「ボランティア活動・市民活動に興味・関心がある」「地域の多くの人々と協力してクリエイティブな活動を実践したい」など、その思いを実際の行動に移すことが本授業では可能である。各自、地域のために何ができるのか、地域と自分の関係をどのように考えたらよいのか、そうした思いをもち授業に臨んでほしい。

授業計画

- |    |                             |         |
|----|-----------------------------|---------|
| 1  | オリエンテーション 授業計画説明、地域で交流するとは？ |         |
| 2  | 講義（1）－地域について知る①             |         |
| 3  | 講義（2）－地域について知る②             | 特別講師を予定 |
| 4  | 講義（3）－地域貢献・地域交流の先進例①        | 特別講師を予定 |
| 5  | 講義（4）－地域貢献・地域交流の先進例②        | 特別講師を予定 |
| 6  | 演習（1）－地域交流・貢献活動の実際①（見学・視察）  |         |
| 7  | 演習（2）－地域交流・貢献活動の実際②（実践活動体験） |         |
| 8  | 演習（3）－地域の抱える課題について考える       |         |
| 9  | 演習（4）－実践活動のテーマを決める          |         |
| 10 | 演習（5）－地域に出かけて調べる、実践する①      |         |
| 11 | 演習（6）－地域に出かけて調べる、実践する②      |         |
| 12 | 演習（7）－地域に出かけて調べる、実践する③      |         |
| 13 | 演習（8）－調べたことをまとめる①           |         |
| 14 | 演習（9）－調べたことをまとめる②           |         |
| 15 | 演習（10）－調べたことを発表する（まとめ）      |         |

国際文化交流学科科目 シラバス

380009			
科目名	中国語会話	年次配当	2年次
担当者	川口 斐斐	開講時期	通 年
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

本授業は、実践会話に重点を置き、1年間の学習を通じて、自己紹介や旅行など日常生活に必要となる表現を身に付けることを目指す。また、授業において、中国の歌、文化などを紹介し、現代中国への理解を深めながら、中国語会話能力を高めていきたい。なお、この科目は、1年次に「中国語Ⅰ」および「中国語Ⅱ」の単位を取得した学生のみが履修できる。

到達目標

テキスト、歌などを使って会話レベルをアップさせると同時に、書く・読む・自分で文を組み立てる練習を取り入れて、検定試験を受けられるレベルにあげる。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
2年生のコミュニケーション中国語 (白水社)	ラジカセ、DVD

評価方法

定期試験70%、授業態度10%、発表・提出物20%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

発表したり、ロールプレイをしたりする。口を動かすことによって、中国語に慣れる事に努める。中国語による芝居の練習も思案中。

授業計画

1 発音の復習	16 有の表現（2）
2 同上	17 同上
3 名前の尋ね方	18 自己紹介
4 同上	19 同上
5 数字・月日の尋ね方	20 家族の紹介
6 同上	21 同上
7 時刻の尋ね方	22 動詞述語文の応用
8 同上	23 同上
9 是の表現（1）	24 過去の表現
10 同上	25 同上
11 是の表現（2）	26 「可以」「会」「能」の応用
12 同上	27 同上
13 有の表現（1）	28 形容詞述語文の応用
14 同上	29 比較の表現
15 中間発表	30 総復習

国際文化交流学科科目 シラバス

380010			
科目名	韓国・朝鮮語会話	年次配当	2年次
担当者	賈 惠京	開講時期	通 年
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

日韓の季節、文化、近況に関する話題を例に挙げ、文法や発音について講述しながら演習形式で授業を行う。基本的な例文の作成に取り組み、韓国語の理解を深めると共に、コミュニケーション能力を養う。なお、この科目は、1年次に「韓国・朝鮮語Ⅰ」および「韓国・朝鮮語Ⅱ」の単位を取得した学生のみが履修できる。

到達目標

隣国の言葉である韓国語の会話学習を通して、みずからの韓国語力を向上させる。同時に、視野を広げて物事のグローバルな考え方を養い、心を豊かにすると共に、日本を再認識する。母国語以外の言葉に触れ、言葉の多様性を認識すると同時に日韓相互理解を増進させる。

教材

教科書(テキスト)

「みんなの韓国語2」(白帝社)

テキスト以外

副教材：改訂版 日韓類似ことわざ辞典  
(白帝社)

評価方法

定期試験70%、提出物10%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

「継続は力になる」ということばを肝に銘じながら、休まず意欲的に講義を受けて韓国のことばや文化をのみこみましょう。

授業計画

1	ハンゲルの概要	16	会話と文法
2	会話と文法	17	会話と文法
3	会話と文法	18	会話と文法
4	会話と文法	19	会話と文法
5	会話と文法	20	会話と文法
6	会話と文法	21	会話と文法
7	会話と文法	22	会話と文法
8	会話と文法	23	会話と文法
9	会話と文法	24	会話と文法
10	会話と文法	25	会話と文法
11	会話と文法	26	会話と文法
12	会話と文法	27	会話と文法
13	会話と文法	28	会話と文法
14	会話と文法	29	会話と文法
15	会話と文法	30	会話と文法

国際文化交流学科科目 シラバス

380139			
科目名	教育実習	年次配当	2年次
担当者	川口 康子	開講時期	通 年
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	実習		
単 位 数	4単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

<b>授業概要</b>	
<p>中学校において4週間、教科指導、学級指導、生活指導、クラブ活動などの教育経験をすることにより、中学校の実際や教諭としてのさまざまな任務を学ぶ。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>1) 中学校の現場において、教師としてのあらゆる任務を体験的に理解し、それを実践する力を身につけている。2) より良い教師になろうとする意欲をもち、積極的に生徒と接するとともに、実習の成果を振り返ることができる。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 中学校の指示による	テキスト以外 中学校の指示による
<b>評価方法</b>	
実技・態度80%、提出物20%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>1年次に受ける教職専門科目はかなり難しく感じられる面もあるかと思いますが。しかし各授業担当者の指導が何のためであるのか、この教育実習を体験するとよくわかるはずです。責任ある態度で持てる力を十分に発揮し、積極的な姿勢で実習に臨んでください。教職資格取得希望者として、多くのことを体験し、学んでください。</p>	

<b>授業計画</b>	
1 中学校の指示による	川口 康子
2 〃	〃
3 〃	〃
4 〃	〃
5 〃	〃
6 〃	〃
7 〃	〃
8 〃	〃
9 〃	〃
10 〃	〃
11 〃	〃
12 〃	〃
13 〃	〃
14 〃	〃
15 〃	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380085			
科目名	特別研究	年次配当	2年次
担当者	専任教員	開講時期	通年
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

提示された研究テーマの中から、取り組みたいものを選び、担当教員の指導を受けながら研究を進める。研究テーマは、個人やグループで行うもの、現場に出ていくもの、実際に活動を伴うものなど、いろいろなものがある。また、研究成果を第三者に分かりやすく紹介するための発表会も行う。

到達目標

選択した研究テーマについて、調べる、議論する、実践する、まとめるなどの研究活動を主体的な態度で取り組むことができる。また、研究成果を論文、報告書などの形でまとめるとともに、発表して第三者にわかりやすく伝えることができる。

教材

教科書(テキスト)  
なし

テキスト以外

各自のテーマに沿って、担当教員が適宜参考資料等の紹介をする。

評価方法

提出物60%、発表20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

研究テーマは、本学科で学んだことに関する内容の中から、担当の教員と相談しながら決めていきます。短大における学びの集大成として、主体的にそして誠実に丁寧に研究に取り組んで下さい。

また、「自分らしい」オリジナリティーのある研究をめざしましょう。そのためには、自分のリサーチクエスチョンをなるべく具体的に設定し、一つのテーマを「広く浅く」ではなく、「狭く深く」しぼり込んでいく必要があります。

授業計画

1	【4月～6月】	16	【10月～11月】
2	ガイダンス(全員)	17	ガイダンス(全員)
3	特別研究の進め方(方法、形式)	18	執筆、調査、フィールドワーク、実践活動
4	研究計画の立案(テーマの具体化、役割分担)	19	情報や資料の整理、分析、考察
5	研究活動(文献リサーチ、フィールドワークなど)	20	「中間成果」提出準備
6	「前期成果」発表準備	21	【11月中旬】
7		22	「中間成果」提出
8	【7月】	23	【12月下旬】
9	「前期成果」発表会	24	成果提出
10	夏休みの間の進め方	25	論文形式、実践報告書、記録、翻訳
11		26	その他資料、付録など
12		27	【1月】
13		28	ガイダンス(全員)
14		29	発表会準備
15		30	発表会

国際文化交流学科科目 シラバス

380134			
科目名	カウンセリング論	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	ピアヘルパー資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<p><b>授業概要</b></p> <p>主にピアヘルパーを目指している人向けの内容です。カウンセリングの概要や具体的なすすめ方について解説します。授業の一部には体験的な演習が含まれます。</p>
<p><b>到達目標</b></p> <p>ピアヘルパーとして必要なカウンセリングに関する理論と実践を身につけ、青年期の諸課題に対してピアヘルパーが援助する役割を理解します。</p>
<p><b>教材</b></p> <p>教科書(テキスト) <span style="float:right">テキスト以外</span></p> <p>「ピアヘルパーハンドブック」 日本教育カウンセリング協会編 (図書文化)</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>定期試験80%、授業態度20%</p>
<p><b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b></p> <p>ピアカウンセラーになるには、ピアヘルピングについてだけでなくカウンセリング全体を把握することが必要です。また、青年期の諸課題について日常経験と結びつけて理解してください。また、グループでコミュニケーション練習する演習を行います。複数学科での合同授業になりますので、他学科の学生との交流も行います。</p>

<p><b>授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングの定義と必要性</li> <li>2 カウンセリングの種類①領域・トピック・方法・目的</li> <li>3 カウンセリングの種類②精神分析、行動理論、来談者中心療法</li> <li>4 カウンセリングの方法①受容</li> <li>5 カウンセリングの方法②支持</li> <li>6 カウンセリングの方法③非言語的方法</li> <li>7 ピアヘルピングのプロセスとその関係領域</li> <li>8 ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点</li> <li>9 学業領域の課題とピアヘルパーの活動</li> <li>10 進路領域の課題とピアヘルパーの活動</li> <li>11 友人領域の課題とピアヘルパーの活動</li> <li>12 グループ領域の課題とピアヘルパーの活動</li> <li>13 関係修復領域に対するピアヘルパーの活動</li> <li>14 心理領域に対するピアヘルパーの活動</li> <li>15 心理領域に対するピアヘルパーの活動</li> </ol>
---

国際文化交流学科科目 シラバス

380050			
科目名	ホスピタリティ論	年次配当	2年次
担当者	荒井 優・池谷 千恵 他	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

ホスピタリティとは何か、なぜそれが必要なのか、またどのような意味があるのかを学ぶ。まず接遇や挨拶について心理学の立場から解き明かし、引きつづいてホテルや観光業務、福祉・看護におけるホスピタリティについて、さらにホスピタリティ・マナーや接客における色彩の効果などについて学び、検定試験を受験する。

到達目標

ホスピタリティ精神の基本を理解する。また各講義の聞き取り・ノートテイク・まとめ・質疑応答など、社会生活で求められる基本的な姿勢を身につける。

教材

教科書(テキスト)  
指定しない

テキスト以外  
各回の担当者が適宜プリントを配布する。

評価方法

提出物100% (ただし出席を前提とする)

学生に対するメッセージ (準備学習等)

ホスピタリティの意味とその効果的な実践方法を知っておくことによって、社会での人間関係や日常生活形成に役立ててほしい。

授業計画

1	ガイダンス	荒井・池谷
2	ホスピタリティの心理学	河村壮一郎
3	ホスピタリティ・マナー (1)	八百谷和子
4	ホスピタリティ・マナー (2)	八百谷和子
5	観光とホスピタリティ (1)	小林峰雄
6	観光とホスピタリティ (2)	小林峰雄
7	病院のホスピタリティ	未定
8	障害者福祉のホスピタリティ	井手添陽子
9	色彩心理	河村壮一郎
10	カラー・コーディネート	遠藤きくよ
11	} ホテル・旅館のホスピタリティ	未定
12		
13	ホスピタリティ検定ガイダンス	荒井・池谷
14	} ホスピタリティ検定講座	ホスピタリティ協会
15		

国際文化交流学科科目 シラバス

380107			
科目名	宗教と人間	年次配当	2年次
担当者	荒井 優	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

宗教は良くも悪しくも人間の営みである。しかし宗教を一義的に定義するのは難しい。(1) 宗教の諸類型にもとづいて宗教の多様性を見る。(2) 世界に存在する諸宗教を見る。また(3) 宗教のさまざまな側面、風土との関係や信仰との関係、死後観、シャーマンとは何か、といった問題について考える。

到達目標

日本や世界の文化を宗教現象の側面から見ていく。一神教と多神教の根本的な違い、その違いが文化にどのような影響をもたらしているのかを理解する。世界の宗教、日本の宗教、また民俗にみるさまざまな宗教現象について、基本的な理解を深め、文化的な視野を広げる。

教材

教科書(テキスト)  
指定しない

テキスト以外  
時にレジュメを配布する  
参考文献は授業中に紹介する

評価方法

提出物70%、授業態度30%(ただし出席状況が前提)

学生に対するメッセージ(準備学習等)

人はみな「宗教」についてある程度のイメージを持っている。偏見も多い。必要以上に「宗教」を恐れている人も多い。そうした自分の宗教イメージを対置させながら、授業に臨んでほしい。

授業計画

- 1 宗教とはなにか
- 2 宗教の諸類型 (1) 自然宗教と創唱宗教
- 3 " (2) 一神教と多神教
- 4 風土と宗教 (1) 砂漠の宗教
- 5 " (2) 森の宗教-草原の宗教
- 6 世界の諸宗教 (1) ユダヤ教-キリスト教-イスラム教
- 7 " (2) ヒンドゥー教-仏教
- 8 日本の宗教 (1) 神道
- 9 " (2) 神道
- 10 " (3) 仏教
- 11 " (4) 新興宗教
- 12 民俗宗教 (1) シャーマン
- 13 " (2) 陰陽道
- 14 " (3) 怨霊信仰
- 15 " (4) 妖怪

国際文化交流学科科目 シラバス

380105			
科目名	多文化共生論	年次配当	2年次
担当者	池谷 千恵	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

この授業のテーマは「人と人との共存」。世界の色々な地域で、異なった民族、考え方の人々がどのような問題を抱えているかを知り、その問題の背景にある要因について探る。そして彼らの共存のための試みについて学び、その課題や、今後の可能性について考察する。

到達目標

現代の世界の動きや諸問題について関心を持ち、情報を得ようとする姿勢を育てる。また、授業で問題提起された事柄について、自分の意見や展望をまとめて述べる力、特に関心を持ったテーマを自分で掘り下げるリサーチ力を養うことを目標とする。

教材

教科書(テキスト)  
使用しない

テキスト以外

授業において参考図書を適宜紹介する。  
配布資料、視覚教材（ビデオなど）、新聞など

評価方法

授業態度40%、定期試験60%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

今日、国際化、グローバル化と言われるように、世界の情勢や情報が即座に身近に伝わるようになっていきます。日頃から世界のことに関心を持ち、自分の意見が持てるようにしましょう。また、新聞の国際面がしっかり読み込めることを目標にしましょう。（授業では就職試験の国際情勢・時事問題対策も行います。）

授業計画

- 1 インTRODクシヨン：授業ガイダンス&世界の国々基礎知識
- 2 人種にまつわる諸問題（1）：アメリカ、黒人差別の歴史と現状
- 3 人種にまつわる諸問題（2）：南アフリカ、アパルトヘイト
- 4 多文化共生をめざす国：カナダ、ニュージーランド
- 5 世界の先住民（1）：世界の先住民 共通の特色と抱える課題
- 6 世界の先住民（2）：オーストラリア先住民アボリジニの聖地ウルル
- 7 中東：イスラエル・パレスチナ紛争の背景を理解する
- 8 ヨーロッパ（1）：イギリス文化の多様性と共生への課題
- 9 ヨーロッパ（2）：ヨーロッパ連合の可能性と課題
- 10 アジア：アジアの経済連合とこれから
- 11 国際連合の役割とNGO
- 12 世界の抱える諸問題（1）：争いのない世界を願って（紛争・難民問題）
- 13 世界の抱える諸問題（2）：世界のアンバランス・命の格差（人口・貧困・環境）
- 14 日本（1）：在住外国人の現状と課題
- 15 日本（2）：私たちの心の変革・多文化共生を考える

国際文化交流学科科目 シラバス

380006			
科目名	中近東の文化	年次配当	2年次
担当者	大江 節子	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

現在では、中近東という呼び方はあまり使われない。何故か、ということからはじめ、西アジアで農耕・牧畜が始まり人々が定住を始めた時期から、この地がギリシア風になっていく時期まで、特に文化や社会制度の面から考察・解説する。

到達目標

現在西アジアは混迷を極めた紛争の地となっているが、この地は昔、人類最古の文明が誕生した、世界をリードする地でもあった。この授業では、現在とは様相を異にした古代の西アジアを学び、西アジアへの理解を深めるとともに、多角的な視野でものをみる態度を身につける。

教材

教科書(テキスト)

『アジアの歴史と文化 9. 西アジア史』  
発行：同朋舎、発売：角川書店

テキスト以外

『西洋の歴史 基本用語集〔古代・中世編〕』  
ミネルヴァ書房、2008年

評価方法

定期試験60%、レポート&提出物20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

まず、できるだけ西アジアの情報を自分で「知る」ようにしてください。「歴史」は過去のことを学ぶだけではありません。歴史を知ることが、現在を知ることもあります。

授業計画

- 1 オリエンテーション：講義のねらいと授業計画
- 2 20世紀半ば頃までのオリент研究と、それ以後のオリент研究
- 3 西アジアの風土、環境と適応
- 4 農耕・家畜飼育、定住
- 5 西アジアの民族と言語
- 6 前5千年紀～前3千年紀の世界
- 7 前3千年紀～前2千年紀の西アジア
- 8 前1千年紀の世界
- 9 王権の成立と発展
- 10 古代西アジア発祥の宗教
- 11 女性、家族
- 12 法と裁判制度
- 13 ヘレニズム時代の西アジア—前編
- 14 ヘレニズム時代の西アジア—後編
- 15 西アジア世界の没落はなぜ? ; まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380122			
科目名	郷土の工芸 A	年次配当	2 年次
担当者	吉田 公之介	開講時期	前 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	1 単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

授業は講義を 1 回程度、あとの時間はイラストボードをフレームにした織り実習をする。

到達目標

工芸と我々の生活との関わりや工芸の成り立ちなどから、工芸とは何かを考える。  
また実習を通して、ものづくりの大変さ大事さなどを知り、物を大切にすることを学ぶ。

教材

教科書(テキスト)  
使用しない

テキスト以外  
使用しない

評価方法

授業態度、レポート、提出物等により評価する。  
授業態度 40%、レポート 10%、提出物 50%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

この授業を通して身近な工芸へも興味を持ち、使い捨て時代に物を大切にするとはどういうことか、今一度考えて欲しい。

授業計画

- 1 講義・実習 工芸についてと簡単な織りの説明。織りに使うフレームを作る。
- 2 実習 下絵を考える。織りに使うフレームを作る。
- 3 実習 フレームに経糸を張る。
- 4 実習 下絵を経糸に写しそれにそって織る。
- 5 実習 織り
- 6 実習 織り
- 7 実習 織り
- 8 実習 織り
- 9 実習 織り
- 10 実習 織り
- 11 実習 織り
- 12 実習 織り
- 13 実習 織り
- 14 実習 織り
- 15 実習 織り

国際文化交流学科科目 シラバス

380123			
科目名	郷土の工芸B	年次配当	2年次
担当者	小原 雅也	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<b>授業概要</b> 作陶を体験してみる。	
<b>到達目標</b> やきものの種類や出来上がる工程を知る。 作陶を通して、物を作る喜びと日常生活を個性豊かで楽しいものにできる能力を身につける。	
<b>教材</b> 教科書(テキスト)	テキスト以外 粘土
<b>評価方法</b> 実技50%、提出物25%、授業態度25%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b> やきものを見る、使う、作る楽しさを体験しよう。(材料費3,500円程度)	

<b>授業計画</b>	
1	講義 やきものの種類を知る
2	〃 やきものの出来るまでの工程を知る
3	実習 土にふれてみる(土ねり)
4	〃 〃 (表現)
5	〃 成形
6	〃
7	〃 削り
8	〃
9	〃 装飾
10	〃
11	〃 乾燥
12	〃 素焼き
13	〃 釉がけ
14	〃 窯出し
15	〃 本焼き

国際文化交流学科科目 シラバス

380077			
科目名	日本文化研修	年次配当	2年次
担当者	根鈴 輝雄	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	何名でも

授業概要

神と仏が宿る山、三徳山三仏寺（三朝町）の信仰と仏教美術について解説する。講義の仕上げは、修験道の霊場として名高い三仏寺において現地学習を行う。

到達目標

郷土の文化遺産をとおして日本文化の深層に触れる機会とするとともに地域の文化財を日本史のなかに位置付ける視点を持っている。

教材

教科書(テキスト)  
指定しない

テキスト以外  
随時、プリント等を配布する

評価方法

提出物20%、レポート30%、発表30%、授業態度20%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

実際に文化遺産に触れることを目的としているため、現地学習には必ず出席しなければならない。旺盛な好奇心と揺ぎ無い体力が必要である。

授業計画

- 1 神と仏が混交する平安時代の信仰①
- 2 神と仏が混交する平安時代の信仰②
- 3 三仏寺にみる山岳信仰①
- 4 三仏寺にみる山岳信仰②
- 5 三仏寺現地研修
- 6 "
- 7 "
- 8 "

国際文化交流学科科目 シラバス

380044			
科目名	英文講読	年次配当	2年次
担当者	川口 康子	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

世界各地の民族や部族が、どのようなものをどのように料理し、どのような作法で食べるのかを知ることは、その地域の人々の暮らしを知る方法の一つである。この授業では“食文化”に関する文献を英文で読むことにより、文化的知識を広げるとともに、リーディングのスキルの伸張をめざす。

到達目標

1) 辞書を引きながら、丁寧に英語の文章を読解する。 2) まとまった内容を読む力を身につけ、各国の食文化に関する概要を理解する。 3) 食文化の歴史に関する知識を深める。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外  
 A Global Tour of Dietary Culture  
 by 大橋 久利 & Blake Baxter 成美堂

評価方法

提出物50%、授業態度30%、定期試験20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

英語の学習は、辞書を引くのが面倒とか、構文の読解は大変だ、などと思っていないか? でもこの授業では食文化に目を向け、英語を読むおもしろさを見つけましょう。“食”は人々の歴史や文化を物語っているもの、いろいろな人々の暮らしが見えて楽しく読むことができますと思います。事前に必ず英文を読んで、授業時に内容の発表をしてください。

授業計画

- 1 English Tea
- 2 China, the Cradle of Tea
- 3 Tea Ceremony
- 4 The Route of Coffee
- 5 The Culture of the Knife and Fork
- 6 The Culture of Chopsticks
- 7 The Culture of Eating with the Fingers
- 8 Chinese Cuisine
- 9 French Cuisine
- 10 American Cuisine
- 11 The Sphere of Bread Culture
- 12 The California Roll
- 13 Noodles of the World
- 14 The Potato
- 15 Food Taboos

国際文化交流学科科目 シラバス

380036			
科目名	スピーチ&ディスカッション	年次配当	2年次
担当者	Ian Michael Hampstead	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

<p><b>授業概要</b></p> <p>This course will provide students with the opportunity to practise and develop their discussion and speech giving skills further. Public speaking, informative, giving a presentation, discussing opinions and evaluating will all be practised.</p>				
<p><b>到達目標</b></p> <p>1) Students can prepare a speech and give a presentation. 2) Students can evaluate their work and others' as well as can accept helpful feedback.</p>				
<p><b>教材</b></p> <table border="0"> <tr> <td>教科書(テキスト)</td> <td>テキスト以外</td> </tr> <tr> <td>"Conversation Book for Everyday Japanese and English" Diane Nagamoto Joho Center Publishing</td> <td>Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher. Video recording and example speeches shown.</td> </tr> </table>	教科書(テキスト)	テキスト以外	"Conversation Book for Everyday Japanese and English" Diane Nagamoto Joho Center Publishing	Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher. Video recording and example speeches shown.
教科書(テキスト)	テキスト以外			
"Conversation Book for Everyday Japanese and English" Diane Nagamoto Joho Center Publishing	Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher. Video recording and example speeches shown.			
<p><b>評価方法</b></p> <p>Participation 50%, preparation 20%, and attitude 30% will all be evaluated generally. Individually each student's accuracy, comprehension, pronunciation and fluency will also be evaluated.</p>				
<p><b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b></p> <p>Instruction will be given generally as well as on an individual basis depending on what each student requires. I would like the students to learn how to feel more confident when giving a speech or presentation.</p>				

<p><b>授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction speech &amp; presentation (teacher) discussion</li> <li>2 How to use, posture, gesture, eye contact, intonation</li> <li>3 Introduction speech &amp; presentation (students) discussion</li> <li>4 Initial review &amp; evaluation: how to improve</li> <li>5 Speech preparation: planning content and language</li> <li>6 Speech: practise and present</li> <li>7 Presentation preparation: planning content and language</li> <li>8 Presentation: practise and present</li> <li>9 How to evaluate work, give criticism &amp; accept criticism</li> <li>10 Discussion: favourite movies (group)</li> <li>11 Discussion: favourite books (group)</li> <li>12 Speech or discussion topic (decided by each student)</li> <li>13 Speech or discussion topic (decided by each student)</li> <li>14 "My life 10 years from now" (individual student speech)</li> <li>15 Review and final evaluation</li> </ol>
--

国際文化交流学科科目 シラバス

380039			
科目名	クリエイティブ・ライティング	年次配当	2年次
担当者	Ian Michael Hampstead	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

This course will provide students with opportunities to learn about and put into practise different forms of writing such as - story telling, letter writing, poetry, song, and understanding styles of narrative, Students will learn how to initiate, develop and organise their ideas appropriately.

到達目標

- 1) Students can develop their own ideas and interests into a written format.
- 2) Students can draw upon their own personal experiences, learning from different examples of written resources.

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher.

評価方法

Participation 35%, preparation 40%, and attitude 25% will all be evaluated generally. Individually each student's accuracy, comprehension, vocabulary used, correct use of grammar will also be evaluated along with a final written examination.

学生に対するメッセージ (準備学習等)

Instruction will be given generally as well as on an individual basis depending on what each student requires. I would like the students to try and develop, and express their own ideas through a written format, the more creative the better!

授業計画

- 1 Experimenting with words, understanding verbs
- 2 Experimenting with sentences, understanding nouns
- 3 Understanding connectives
- 4 How to generate and organise ideas
- 5 Topic: Telling a story (using past tenses)
- 6 Topic: Daily routine (using present tenses)
- 7 Topic: "My Perfect Day" (using future tense)
- 8 Review: how to learn from common mistakes 1
- 9 Relevant writing: how to write a letter
- 10 Relevant writing: how to write a resume
- 11 Review: how to learn from common mistakes 2
- 12 Topic: writing a poem (group activity)
- 13 Topic: writing a song (group activity)
- 14 Individual story readings / letter readings
- 15 Group poem readings / group song readings

国際文化交流学科科目 シラバス

380046			
科目名	英語学	年次配当	2年次
担当者	小林 昌博	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	中学校教諭免許資格選択必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要

本クラスは「英語」の授業とは異なり、「英語学」の授業です。英語の音声や音韻体系、語の形態、統語構造、文の意味などを英語の歴史を織り交ぜ学習していきます。授業の進行は、テキストにしたがって進みます。また、学期末にはレポートの提出がある予定です。知識の定着をはかるために簡単な小テストも行う予定です。

到達目標

本講義受講終了時には、英語学の基礎力が身に付いていることを目標とします。

教材

教科書(テキスト)

ファンダメンタル英語学  
(中島平三著、ひつじ書房)

テキスト以外

プリント等をこちらで準備します。

評価方法

レポート65%、授業態度35%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

英語の構造や歴史を学ぶことにより、英語に対する知識が深まっていくことと思います。この知識は、実際に英語を使う際にも非常に役に立つはずですが、本授業を通して「言語」に関する面白さを発見してください。皆さんが積極的に授業に臨むことを期待しております。

授業計画

- 1 インTRODクシヨン(授業の概要、評価方法等の説明)
- 2 音韻及び英語史
- 3 音韻及び英語史
- 4 形態論の学習
- 5 形態論の学習
- 6 統語論(文法構造について)
- 7 統語論(樹形図の描き方について)
- 8 統語論(生成文法の初歩)
- 9 統語論(その他の統語理論)
- 10 英語の意味(様々な意味関係)
- 11 英語の意味(文と論理)
- 12 英語の意味(推論)
- 13 語用論の学習
- 14 コンピュータと言語について
- 15 講義のまとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380125			
科目名	ビジネス実務演習B	年次配当	2年次
担当者	岩井 和由	開講時期	前期
所属	生活学科 情報・経営専攻	資格選択区分	ビジネス実務士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

ビジネス実務概論で学んだことを基礎として実務の様々な事項を演習という形で確認学習を行う。

到達目標

最低限の実務能力を取得する。

教材

教科書(テキスト)  
秘書実務

テキスト以外  
適宜配布

評価方法

定期試験50%、小テスト50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

頭のなかで理解したことと実際に行うことは異なる。実務上必要とされる様々な知識を実際にやってみることでいっそうの理解ができ身に付くことになる。

授業計画

- 1 服装と身だしなみ
- 2 接遇の基礎
- 3 電話の対応
- 4 スケジュール管理
- 5 出張業務
- 6 会議・会合・行事      1. 会議の種類
- 7 会議・会合・行事      2. 会議の準備・運営・議事録
- 8 会議・会合・行事      3. 会社の行事
- 9 仕事と文書              1. ビジネス実務と文書
- 10 仕事と文書             2. 法律文書
- 11 仕事と文書             3. 会計文書
- 12 仕事と文書             4. 会計業務
- 13 慶弔業務
- 14 文書作成実習
- 15 まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380138			
科目名	情報処理B	年次配当	2年次
担当者	板倉 一枝	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	2名

授業概要

表計算ソフトならびにプレゼンテーションソフトの基本的な利用方法について学びます。  
初めは、提示された演習問題を解きながら操作方法について解説していきますが、自分が作りたいものを作るにはどのようにすればよいのかについてもあわせて考えていきます。

到達目標

- ・表計算ソフトを使って計算や図表の作成をすることができる。
- ・表計算ソフトにあるデータベース機能について理解し、応用利用しようとする力が身につく。
- ・プレゼンテーションソフトの基本的な使い方を学び、スライドの作成ができるようになる。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
未定 (使用する予定)	適宜プリント配布 USBフラッシュメモリ使用

評価方法

定期試験40%、提出物30%、授業態度30%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

表計算ソフト、プレゼンテーションソフトは、基本さえ知っておけば、ある程度の操作が可能ですが、しかし、何をどのように作りたいのか、自分自身でデザインできないとデータが作成できません。そのためにも、学習したことをどう生かしたらよいのか、しっかりと考えながら学んでいってください。

授業計画

- 1 表計算ソフト (1) E x c e l の基礎、データの入力
- 2 表計算ソフト (2) 表の作成
- 3 表計算ソフト (3) 数式の入力
- 4 表計算ソフト (4) 集計
- 5 表計算ソフト (5) グラフの作成
- 6 表計算ソフト (6) データベースの利用①
- 7 表計算ソフト (7) データベースの利用②
- 8 表計算ソフト (8) まとめ(総合問題)
- 9 プレゼンテーションソフト (1) プレゼンテーションとは
- 10 プレゼンテーションソフト (2) スライドの作成と文字の入力
- 11 プレゼンテーションソフト (3) 図表・グラフの作成と挿入
- 12 プレゼンテーションソフト (4) アニメーションの設定
- 13 プレゼンテーションソフト (5) 課題の制作①
- 14 プレゼンテーションソフト (6) 課題の制作②
- 15 プレゼンテーションソフト (7) 発表準備、まとめ(総合問題)



国際文化交流学科科目 シラバス

380072			
科目名	教育実習指導	年次配当	2年次
担当者	川口 康子	開講時期	前期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

<b>授業概要</b>	
<p>中学校での教育実習がより効果的に行われるために、実習の意義、目的、内容、方法、その心構えなどについて事前研究するとともに、実習の事後指導を行う。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>教育実習生としての自覚を持ち、礼儀、服装、言葉遣い等、基本的な項目を理解する。実習日誌の記載方法を含めて、中学校での具体的な日常業務を事前に理解する。実習後は、それらの達成度と改善点を検討する。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 使用しない	テキスト以外 必要に応じてプリントを配布
<b>評価方法</b>	
提出物50%、授業態度50%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>中学校での教育実習は、中学生という対象の難しさに加えて、より高度の知識や技術を要するため、中途半端な姿勢では困難です。強い意志と気概をもって取り組んでください。 この授業は平成23年度に中学校教育実習を行う学生を対象とします。</p>	

<b>授業計画</b>	
1 中学校での教育実習とは	川口 康子
2 実習の意義	〃
3 実習の目的	〃
4 実習の内容	〃
5 実習の方法	〃
6 実習の心構え	〃
7 実習の反省	〃
8 まとめ、課題の指示など	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380504			
科目名	読書と豊かな人間性	年次配当	2年次
担当者	宍道 勉・上田 京子	開講時期	前期
所属	図書館・非常勤講師	資格選択区分	学校図書館司書教諭資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

読書とは本来個人的な能動的な行為であるにも関わらず、これまではその指導を国語科の中で捉えることが多かった。ここでは改めて児童生徒にとって読書とは何か、司書教諭や学校司書が果たす役割は何かを考える。

到達目標

学校に於ける読書指導を「どうすべきか」の一般論で捉えるのではなく、皆さん自身の読書を通じて、人間にとって「本を読むこと」が学びの基本であることを理解し、それが何故必要かについて自分の考えを述べることができる。

教材

教科書(テキスト)  
なし

テキスト以外

岩波書店編集部「読書を楽しもう」岩波ジュニア新書  
阿刀田 高「短編小説を読もう」岩波ジュニア新書

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

読書については一人一人異なっており当然である。まずは自分の読書経験、読書生活を考え、自身の読書観を明確にすることから始める。自分の読書スタイル、自分にとって最良の読書法を確立してもらいたい。自分ならどうするかが問題である。

授業計画

1	読書とは何かーその意義ー	宍道 勉
2	日本の読書推進活動	〃
3	学校における読書指導 ブックトークなど	〃
4	自分の読書法を考える	〃
5	本の選択法	〃
6	自分のお薦め本を考えるーリスト作成ー	〃
7	みんなで語ろう本の面白さ	〃
8	読書生活を考える1:スタイル	上田 京子
9	同2:読書傾向	〃
10	同3:読書法	〃
11	読書指導とは その効果とは	〃
12	読み聞かせ	〃
13	ストーリーテリング	〃
14	読み聞かせとストーリーテリングの実践	〃
15	まとめ	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380133			
科目名	人間関係演習	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	後 期
所 属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修 ピアヘルパー資格必修
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

ピアヘルパーとして学生間で相互に援助するはたらきかけについて理解を深め、また実践できるように練習します。授業の前半ではピアヘルパー資格取得をめざしたトレーニングも行います。

到達目標

ピアヘルパーとして仲間の援助を行うために必要な知識を身につけます。また、ヘルピングのためのコミュニケーション技法を習得します。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外  
 「ピアヘルパーワークブック」  
 日本教育カウンセリング協会編 (図書文化)

評価方法

定期試験80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

授業ではピアヘルピングの演習を行います。アットホームな雰囲気の中で、受講者同士がうち解け合い、まずは自己の気持ちを表現することや他者に話を理解されることを実感してください。なお、この授業の受講には2年前期の「カウンセリング論」の単位を取得していることが前提になります。

授業計画

- 1 人間関係におけるカウンセリングスキルとピアヘルパーの心がまえ
- 2 カウンセリング理論①
- 3 カウンセリング理論②
- 4 カウンセリング理論③
- 5 言語的技法
- 6 非言語的技法
- 7 ピアヘルピングでの解決方法
- 8 青年期の課題①
- 9 青年期の課題②
- 10 ピアヘルパー重要用語
- 11 構成的グループエンカウンター
- 12 エンカウターのエクササイズ
- 13 ロールプレイによる総合演習①
- 14 ロールプレイによる総合演習②
- 15 ロールプレイによる総合演習③

国際文化交流学科科目 シラバス

380135			
科目名	東西交流論	年次配当	2年次
担当者	大江 節子	開講時期	後期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入 可		受入可能人数	若干名

授業概要

古代メソポタミアは、東西文明の十字路である。この授業では、古代の東西交流に関するいくつかの英語論文を講読しながら、古代における東西交流について解説・考察する。学生も輪番で講読のチューターを務めることとする。

到達目標

易しい英書から読み始めることにより、英書に対する親しみや読解力を身につける。また、受講生は必ず予習をしてチューターを務めることとし、自主的に学ぶ態度を身につける。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外  
 テキストは適宜配布する

評価方法

定期試験50%、授業態度50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

必ず予習をしてくことと、英語関係科目を主として学んでいることが前提。

授業計画

- 1 オリエンテーション：講義のねらいと授業計画
- 2 (受講者と相談の上、以下14回の授業で数本の英書を講読[できれば短い論文3本程度]を読む)
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15

国際文化交流学科科目 シラバス

380108			
科目名	西洋の精神文化	年次配当	2年次
担当者	荒井 優	開講時期	後 期
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

西洋の精神文化を歴史的に形成しているものとして、古代ギリシア、古代ケルト、ユダヤ＝キリスト教をあげることができる。1. 古代ギリシアではソクラテスに注目し、彼の何が後の西洋に影響をもたらしたのか、2. ケルト文化がキリスト教以前のヨーロッパでどのような位置にあったのか、3. ユダヤ教がどのように生まれ、なぜ受難の歴史をたどったのか、またキリスト教がどのように生まれヨーロッパに広まったのかを見てゆく。

到達目標

西洋文明を形成している3つの要素（ギリシア・ケルト・ユダヤ＝キリスト教）について、その基本的な概要の理解を目標としている。

教材

教科書(テキスト)  
指定しない

テキスト以外  
時にレジュメを配布する  
参考文献は授業中に紹介する

評価方法

レポート100%（ただし出席を前提とする）

学生に対するメッセージ（準備学習等）

西洋は一神教の精神文化である。日本は、明治時代以降とくに戦後、西洋の一神教文化のなかに取り込まれている。しかし日本の精神文化の基層は多神教・アニミズムの文化である。そうした文化の相違を意識しながら、西洋の基層をなしている精神思想を紹介し、西洋文化の特性について考え、また中東問題の起源にも触れてみたい。

授業計画

- 1 西洋文化の諸相
- 2 古代ギリシアーソクラテスの思想（1）アイデア論
- 3     "          ソクラテスの思想（2）恋愛論
- 4     "          ソクラテスの思想（3）芸術論・宗教論
- 5 ケルト文化ー（1）ケルトと妖精
- 6     "          （2）ケルトの歴史と宗教
- 7     "          （3）ケルト・キリスト教
- 8     "          （4）ケルトの大離散
- 9 ユダヤ教ー（1）出エジプトとヤハウェ信仰
- 10    "          （2）バビロン捕囚とユダヤ教
- 11    "          （3）ユダヤ戦争とディアスポラ・ユダヤ人
- 12    "          （4）中世&近世のユダヤ人
- 13 キリスト教ー（1）イエスの宗教観
- 14    "          （2）キリスト教の成立と発展
- 15    "          （3）キリスト教と近代科学

国際文化交流学科科目 シラバス

380121			
科目名	日本社会論	年次配当	2年次
担当者	仲野 真由美	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

皆さんの経験や社会現象を踏まえながら、社会科学的に考えることを実践していきます。具体的には、まず、教科書や資料で社会学の視点を説明します。そのあと、DVDや資料を見て、個人的な経験や社会現象を皆さんなりの考えを持ち、演習やレポート作成していきます。

到達目標

社会学は、人と人との関わり、人と社会との関わりの中から生じる、さまざまな現象を研究対象とする学問です。今、私たち自身が、どのような社会に暮らしているのかを知り、今後、自分がどのような社会を望むのかを考える力を身につけることを目標にします。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外  
 友枝敏夫他『社会学のエッセンス』有斐閣アルマ 様々な社会現象について、レジュメや資料で説明し、DVDにて視聴します。

評価方法

試験50%、提出物50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

社会学は、自明視すること(当たり前と思って深く考えないこと)をやめたり、常識を疑ってみたりすることから始まります。頭を柔らかくして、授業に臨んでください。

授業計画

- 1 はじめに 社会学のものの見方、考え方
- 2 意味と相互主観性 ～私からあなたへ、あなたから私へ～
- 3 アイデンティティ ～私が私であること～
- 4 ステイグマ ～他者への烙印～
- 5 ドラマトゥルギー ～日常の中の演技～
- 6 正常と異常 ～選別と排除のメカニズム～
- 7 予言の自己成就 ～現実と虚構のはざま～
- 8 ジェンダー ～女であること/男であること～
- 9 規範と制度 ～私たちを取り巻くルール～
- 10 構造と機能 ～社会のマクロな事象をとらえる～
- 11 コミュニケーションの自己準拠 ～社会秩序の不思議さ～
- 12 社会の中の権力 ～姿を見せる権力/姿を見せない権力～
- 13 イデオロギー
- 14 共同体 ～人はなぜ共同体を求めるのか～
- 15 まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380114			
科目名	日本の文学	年次配当	2年次
担当者	岡野 幸夫	開講時期	後期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入 可		受入可能人数	若干名

授業概要

平安時代の仮名文学作品の特質について講義する。毎回1作品を取り上げ、その作品の特質が表れている個所を講読することを通して、古典文学の奥深さ、面白さを学ぶ。また、背景となる文化事象についても講義し、古典文学全般についての基礎知識も学ぶ。

到達目標

- ・古典文学を原文で読むための基礎知識を身につける。
- ・古典文学に親しみ、その内容について自分の意見を述べることができる。

教材

教科書(テキスト)  
なし

テキスト以外  
適宜プリントを配布する

評価方法

提出物80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

古典文学は過去の遺物ではなく、現代をより豊かに生きるために役に立つ、一種の「ツール」です。卒業後も古典文学に触れる機会を持てるよう、基本的な知識を身につけてください。

受講者は古語辞典を持参して出席してください。高校時代に使っていたものでもいいですし、古語辞典が入っている電子辞書でもいいです。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 竹取物語(1)
- 3 竹取物語(2)
- 4 伊勢物語と歌物語(1)
- 5 伊勢物語と歌物語(2)
- 6 土佐日記(1)
- 7 土佐日記(2)
- 8 源氏物語(1)
- 9 源氏物語(2)
- 10 枕草子(1)
- 11 枕草子(2)
- 12 大鏡と歴史物語(1)
- 13 大鏡と歴史物語(2)
- 14 とりかへばや物語と中世王朝物語
- 15 まとめ、レポートの指示

国際文化交流学科科目 シラバス

380045			
科目名	英米文学	年次配当	2年次
担当者	岡田 千陽	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	中学校教諭免許資格選択必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

本年度は「英米文学」の中からイギリスの小説家、中でも、19世紀初頭の重要な作家であるジェイン・オースティンを取り上げる。作品としては、後期の代表作『エマ』を扱う。毎週決められた分量の原作（翻訳）を読み、感想を書き、それを元に話し合う、という形で進める予定。映画鑑賞で風俗等も考察する。

到達目標

まずは作品を自ら読んで考え、味わうことが重要である。『エマ』を精読し、現代にも通じる小説の面白さ、逆につまらなさを、自分の言葉で述べることができるようになる。作品のテーマを見つけ、それについて自らの考えを論じられるようになる。

教材

教科書(テキスト)

『エマ』 ジェイン・オースティン・著 中野康司・訳 (ちくま文庫・全2巻)

テキスト以外

必要に応じてプリント配布

評価方法

レポート60%、提出物30%、授業態度10%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

予習として、毎週決められた分量を必ず読み、気づいたことや考えたことを書いて提出することが求められます。『エマ』は、一通り読み終わった後、再度読み直すとなお面白い小説でもあります。とにかく読みまくるつもりで受講してください。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 第一章～第六章 話し合いと解説等
- 3 第七章～第十二章 //
- 4 第十三章～第十八章 //
- 5 第十九章～第二十四章 //
- 6 第二十五章～第三十章 //
- 7 第三十一章～第三十六章 //
- 8 第三十七章～第四十二章 //
- 9 第四十三章～第四十八章 //
- 10 第四十九章～第五十五章 //
- 11 まとめ その1（再読を踏まえて）
- 12 映画鑑賞『エマ』
- 13 //
- 14 まとめ その2（映画鑑賞を踏まえて）
- 15 総まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380079			
科目名	英語ディベート	年次配当	2年次
担当者	Ian Michael Hampstead	開講時期	後期
所属	国際文化交流学科	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

Students will be expected to research into and form personal opinions about a variety of interesting topics, then learn how to give and support their own personal opinions. Students will learn how to debate differing opinions fairly whilst also developing the skills to listen to other people's opinions.

到達目標

- 1) Students can express themselves through good use of appropriate sentences and phrases.
- 2) Students can listen to other people's opinions and express different opinions.

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

Materials such as worksheets and texts will be provided by the teacher.

評価方法

Participation 50%, preparation 20%, attitude 30%, will all be evaluated generally. Individually each student's accuracy, comprehension, vocabulary used, pronunciation and fluency will also be evaluated along with a final debate examination.

学生に対するメッセージ (準備学習等)

Instruction will be given generally as well as on an individual basis depending on what each student requires, I would like the students to discuss and debate a variety of topics and to try and develop and express their own ideas and personal opinions, as well as learn how to listen to and respond to other peoples opinions appropriately.

授業計画

- 1 How to give an opinion effectively and appropriately
- 2 How to disagree with another persons opinion politely
- 3 How to present an argument / understanding pros & cons
- 4 Building useful vocabulary: Current events
- 5 Homework / preparation: Current Events
- 6 Debate topic: Current Events (teams)
- 7 Building useful vocabulary: Country and City living
- 8 Homework / preparation: City life or Country life?
- 9 Debate topic: City life or Country life? (individual)
- 10 Building useful vocabulary: Politics
- 11 Homework / preparation: Prime minister for a day
- 12 Debate topic: Prime minister for a day (individual)
- 13 Research debate topic: (Students choice)
- 14 Debate topic: to be determined by students
- 15 Review / evaluation

国際文化交流学科科目 シラバス

380080			
科目名	子ども英語教育法	年次配当	2年次
担当者	川口 康子	開講時期	後 期
所 属	国際文化交流学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

本講義では、幼児や小学生を対象にした英語教育の意義と目的を学び、幼児・児童に適した言語教材や発達段階にあった指導法等を学ぶ。また公立小学校における外国語活動の意義や目的を学び、より良い外国語活動のあり方について検討する。

到達目標

- 1) 国際理解教育とは何か理解を深める。
- 2) 小学校で求められる言語教育の目標を明らかにする。
- 3) 言語習得の適期と言われる幼児・児童期にふさわしい言語教材や指導法について理解する。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
使用しない	適宜プリントを配布

評価方法

定期試験 30%、提出物 40%、授業態度 30%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

皆さんは英語に対して苦手意識がありますか？ 英語は世界の共通のコミュニケーションの手段となり、今後はますます英語学習が重要になります。英語力の伸長を図るには、基礎となるコミュニケーション力、言語技術の修得が欠かせません。この授業内容は、学生自身にとっても有用な言語学習に関する知識や技術の修得となることを期待しています。

授業計画

- 1 早期英語教育の歴史
- 2 公立小学校における英語活動導入の経緯
- 3 公立小学校における英語活動の意義と目的
- 4            "
- 5 言語教材と指導法   (1) 幼児・小学校1～2年生
- 6            "           (2) 小学校3～4年生
- 7            "           (3) 小学校5～6年生
- 8 言語技術教育とは
- 9            "
- 10           "
- 11 英語活動の実践
- 12           "
- 13 小・中の英語教育連携を考える
- 14           "
- 15 まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380124			
科目名	ビジネス実務演習 A	年次配当	2 年次
担当者	池本 道子	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	ビジネス実務士資格必修
授業形態	演習		
単 位 数	1 単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	5 名

<b>授業概要</b>	
「ビジネス実務概論」で学んだ知識・理論を踏まえて「ビジネス実務」の基本的な事柄と心構えについて学習をする。	
<b>到達目標</b>	
ビジネスの具体的な現場を想定しながら実践的に学び、プロの職業人として即戦力につながる力を身につける。	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) ビジネス実務演習 福永弘之編著 樹村房	テキスト以外 テキストの他電話機、接遇用具、VTR、 プロジェクター
<b>評価方法</b>	
定期試験 60%、実技 10%、提出物 10%、発表 10%、授業態度 10%	
<b>学生に対するメッセージ (準備学習等)</b>	
「挨拶」「敬語が使えない」「自分の意思を的確に表現できない」・・・卒業生を迎え入れる企業や社会の目は厳しい。 上司・先輩・同僚・取引先・顧客などの対人関係をスムーズに築くために不可欠のこの第一関門をうまく通過し、さらにスキルアップする技法を、実習を通して身に付けよう。	

<b>授業計画</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会人としての心構えと働き方の基本</li> <li>2 役職と会社組織</li> <li>3 会議・会合・コーディネート業務</li> <li>4 話し方と言葉づかい</li> <li>5 積極的な聴き方とコミュニケーションをはばむ対応</li> <li>6 接遇（応接と処遇）のマナー</li> <li>7 接遇（応接と処遇）のマナー</li> <li>8 電話対応の基本</li> <li>9 電話対応の基本</li> <li>10 交際業務・慶弔と贈答</li> <li>11 ビジュアルプレゼンテーションの種類</li> <li>12 交渉・契約・印鑑</li> <li>13 文書作成の基本</li> <li>14 人的ネットワーク形成と秘書</li> <li>15 オフィスの環境整備</li> </ol>

国際文化交流学科科目 シラバス

380064			
科目名	教師論	年次配当	2年次
担当者	白石 崇人	開講時期	後期
所属	幼児教育保育学科	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

教師とは何か。教師に関する思想・歴史・制度・実践技術などを学ぶことによって、教師のあり方について考察する。中学校教諭免許の取得希望者を対象とした科目だが、その他の者も受講可能である。

到達目標

日本の教師は、時代ごとにさまざまな期待を背負って、教育を実践してきた。「教師とは何か」を考えるには、教師に関する思想・歴史・制度・技術などのさまざまな知識・理解が必要である。これらを学ぶことによって、理想の教師のあり方を考える態度・能力を身につけることを目指す。

教材

教科書(テキスト)  
使用しない

テキスト以外  
適宜参考文献を提示し、資料を配布する。

評価方法

レポート60% (本レポート40%・小レポート20%)、小テスト20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

教員免許取得を目指して学んできた皆さんは、これまでの講義・実習等を通して、それぞれ教師としての理想のあり方を考えてきたことでしょう。本講義では、それらを整理・集大成して「教師とは何か」を考える基盤とし、自分がこれから目指すべき教師像(イメージ)を明確にしましょう。それは、教師としての資質能力の整理・自覚につながるとともに、教職に対する使命感や教育にかける情熱などの基盤になっていくはずです。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 学習集団の指導者としての教師
- 3 教師によるカリキュラム編成
- 4 教員の養成と資格
- 5 教師の資質向上と研修
- 6 教師の誕生
- 7 国民のモデルとしての教師
- 8 教師の社会的地位と団結
- 9 教育を改造する教師
- 10 地域のなかの教師
- 11 教師の倫理
- 12 教師の専門性
- 13 反省的实践家としての教師
- 14 青少年のいなく教師像
- 15 教師とは何か?

国際文化交流学科科目 シラバス

380066			
科目名	教育心理学	年次配当	2年次
担当者	小林 勝年	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

発達、学習、人格、評価の4領域を中心に解説すると共に、教育実践の科学的根拠を見い出していく。

到達目標

教育の過程における心理学的法則や事実を理解する。また、生涯発達の視点をもちながら幼児期から青年期までの子どもを理解し、子ども一人ひとりの発達に応じた教育的対応について考察できるようになる。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外  
 会田元明著『子どもとむかいあうための教育心理学演習』（ミネルヴァ書房）

評価方法

定期試験100%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

テキストを読んでしっかり理解しよう。

授業計画

- 1 教育の基礎
- 2 教育の原則
- 3 教育方法の心理学的吟味（1）
- 4 教育方法の心理学的吟味（2）
- 5 教育評価
- 6 子ども理解（1）
- 7 子ども理解（2）
- 8 子ども理解（3）
- 9 問題行動への対応
- 10 不登校
- 11 非行
- 12 いじめ
- 13 発達障害（1）
- 14 発達障害（2）
- 15 まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380071			
科目名	教育相談	年次配当	2年次
担当者	中嶋 邦彦	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

<b>授業概要</b>	
<p>教師は、教科指導だけでなく、子どもの心身の発達をも保証する重要な任務を持っている。現代の複雑な社会情勢の中で、問題を持つ子どもや家庭が多くなった今、発達の教育的相談にどう関わればよいかについて学ぶ授業である。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>問題を持つ子どもや家庭が多くなった時代的社会的背景を理解すること、子どもの発達の道筋や発達課題を理解すること、子どもや家族に対して的確なアドバイスが出来る基本的な知識技術を持つこと、を到達目標にしたい。</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 使用しない。	テキスト以外 適宜、参考文献を挙げ、資料を配布する。
<b>評価方法</b>	
定期試験70%、レポート20%、授業態度10%	
<b>学生に対するメッセージ(準備学習等)</b>	
<p>「子どもは社会の鏡」だから、不登校やいじめに代表される子どもの問題は、時代的背景、家族問題の影響を受けています。それらを理解することで実は自分自身の生き方も学ぶことになります。日ごろから新聞やテレビの時事番組など見ておきましょう。また「人生いかに生きるべきか」についても考えましょう。</p>	

<b>授業計画</b>	
1	教育相談の時代的背景
2	〃
3	子どもを取り巻く環境
4	〃
5	縦軸としての人間の道筋
6	〃
7	横軸としての個人の成長発達
8	〃
9	〃
10	子どもの心因性諸症状
11	〃
12	〃
13	教育相談の実際
14	〃
15	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380142			
科目名	教職実践演習（中学校）	年次配当	2年次
担当者	川口 康子 他	開講時期	後 期
所 属	国際文化交流学科 他	資格選択区分	中学校教諭免許資格必修
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

<b>授業概要</b>	
<p>教職の意義や教員の役割、職務内容、教師の対人能力等について、実践的に理解を深める。また、中学校において授業のあり方、生徒指導の実際を学ぶとともに、学級経営について講義・討論によって知識を深める。さらに、討論の仕方や日本語の知識・技能の伸長を図り、卒業後も自ら課題を発見し、研鑽に励む姿勢を身につける。これらを総合して、教師に求められる資質能力を育成する。</p>	
<b>到達目標</b>	
<p>1) 教科に関するより深い専門知識を修得している                  2) 教科の指導技術の向上を図ろうとしている                  3) 社会性や対人能力を備えている                  4) 教師の使命感や責任感、教育的愛情をもち、生徒に接しようとしている</p>	
<b>教材</b>	
教科書(テキスト) 使用しない	テキスト以外 適宜プリントを配布
<b>評価方法</b>	
授業態度20%、発表・技能40%、提出物40%	
<b>学生に対するメッセージ（準備学習等）</b>	
<p>この授業はこれまでの学修成果を振り返り、講義・ディスカッション・ロールプレイングを通して、修得した知識や技能を確認するとともにさらに伸ばそうとするものです。自分の視点をしっかりともち、積極的な姿勢で授業に臨んでください。</p>	

<b>授業計画</b>		
1	これまでの学修の振り返り ・履修カルテの確認	川口康子
2	教職の意義、教師の役割についてディスカッション	〃
3	教科の指導力についてディスカッション	〃
4	教科の指導力についてディスカッション	白石崇人
5	ロールプレイングによる対人関係能力の育成	〃
6	教師としての職業倫理	〃
7	中学校の見学・調査、英語授業の参観	川口・中学校教諭
8	学級経営について講義およびディスカッション	〃
9	保護者や地域関係者との人間関係の構築	〃
10	コミュニケーション技法、議論の進め方	川口・池谷千恵
11	学校教育等についてディベートの実践	〃
12	教師としての読む力	川口・岡野幸夫
13	教師としての書く力	〃
14	模擬授業とディスカッション	川口康子
15	資質能力の確認とまとめ	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380502			
科目名	学校図書館メディアの構成	年次配当	2年次
担当者	宍道 勉	開講時期	後期
所属	図書館	資格選択区分	学校図書館司書教諭資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要

学校図書館と公共図書館との違いを念頭に、図書館資料の組織化を考える。つまり資料の選択、収集方法を考え、それら資料の分類と目録、およびデータベース化を学ぶ。

到達目標

学校図書館は学校教育に見合った蔵書構成が求められる。この科目では学校図書館の資料を理解し、収集方針を考えるとともに、その資料を児童生徒が容易に検索できる分類・目録作成とデータベースの構築法の修得を目標とする。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
使用しない	プリント

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

学校図書館で資料を探すメディアはどのように作成されているのかを考える。特に分類、目録やデータベースを知ることは図書館の内部業務を知る機会ともなる。

授業計画

- 1 学校図書館のメディア その意義と意味
- 2 学校図書館の蔵書構成
- 3 学校図書館資料の特色
- 4 資料の選択、受入、収集
- 5 資料組織化の意義、目的と方法
- 6 分類と目録1
- 7 同2
- 8 データベース
- 9 分類と目録演習1
- 10 同2
- 11 同3
- 12 同4
- 13 データベース作成法1
- 14 同2
- 15 まとめ

国際文化交流学科科目 シラバス

380503			
科目名	学習指導と学校図書館	年次配当	2年次
担当者	宍道 勉・山根 俊喜	開講時期	後期
所属	図書館・非常勤講師	資格選択区分	学校図書館司書教諭資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

学校教育の中で学校図書館をどう活用していくのかを考える。教科教育を、教科書による教育にとどまらず、学校図書館を教育の場として、メディアや資料を使った学習指導にまで発展させる意味と、そのための実践について考える。

到達目標

日本の教育は、従来の教室での教科書による教科教育だけでなく、学校図書館を使う図書館教育へと進展している。ここでは皆さん自身が図書館機能や図書館資料の利用法を考え、児童生徒への指導方法について基本的な知識や技能を身につける。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
なし	配布資料

評価方法

提出物80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

児童生徒が図書館でメディアリテラシーを身につけるとは、メディアの読み書き能力を向上させるということである。この科目ではそのノウハウを学ぶのではなく、受講者自らが資料を読み、参考資料を理解し、更にはコンピュータ利用能力を身につけているかを振り返る。改めて情報処理能力を身につけその活用方法を見出して欲しい。

授業計画

1	教育課程の意義と新学習指導要領	山根 俊喜
2	新学力観と教材（学習材）の意義	〃
3	新しい情報世界と図書館	〃
4	メディアの変遷と資料の種類	〃
5	学校図書館利用指導の意義と目的	〃
6	図書館およびその資料の利用	〃
7	前半まとめ（メディア活用能力指導 小学校・中学校・高等学校の事例）	〃
8	学校図書館の利用指導各論—指導の意義と内容—	宍道 勉
9	指導内容1：図書館の存在理由と機能、マナー	〃
10	同2：情報検索法1：図書館の配置	〃
11	同3：情報検索法2：本の探し方	〃
12	同4：情報検索法3：辞書・事典の使い方	〃
13	同5：情報検索法4：百科事典、その他の参考図書	〃
14	図書館における演習	〃
15	まとめ	〃

国際文化交流学科科目 シラバス

380505			
科目名	情報メディアの活用	年次配当	2年次
担当者	宍道 勉	開講時期	後期
所属	図書館	資格選択区分	学校図書館司書教諭資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要

現代日本の学校教育及び図書館では従来のアナログ・メディアからマルチメディアとしてのインターネットの利用を重要視する方向にある。しかしこの講義では、アナログとデジタル双方を同等に捉えたメディアの活用を考える。

到達目標

学校教育もインターネットを中心としたマルチメディア教育が進んでいるが、情報メディアの基本はアナログ・メディアであることを再認識する。さまざまなメディアの種類や特性を知り、皆さん自身が如何に使うべきかについて自分の考えを述べることができる。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
なし	プリント

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

学校図書館の情報メディアとは何かを考え、学校教育とどのような関わりを持つかを考える。しかしパソコンやインターネットに止まらず、むしろアナログ・メディアの持つ有効性を考える。

授業計画

- 1 概論ーメディアとマスメディアー
- 2 活字・画像メディアー新聞と雑誌、および本ー
- 3 音声、動画メディアーラジオ、テレビそしてインターネットー
- 4 社会におけるコミュニケーション
- 5 「よむ(読む、詠む)」メディア
- 6 「みる(見る、診る、観る)」メディア
- 7 「うつす(移す、撮す、写す、映す)」メディア
- 8 「きく(聞く、訊く、聴く)」メディア
- 9 「うごく(動く、働く、機能する、旅する)」メディア
- 10 「かく(書く、描く)」メディア
- 11 「とく(説く、解く)」メディア
- 12 「はなす(話す、離す、喋る)」メディア
- 13 「わらう(笑う、嗤う)」「なく(泣く、哭く)」メディア
- 14 「まなぶ(学ぶ、真似ぶ)」メディア
- 15 まとめ